あおもり民医連

2018年7月24日発行
【8面オールカラー】発行部数2,790部
第276号

発行元／青森県民主医療機関連合会
所在地／〒030-0822 青森市中央三丁目10番2号
TEL. 017（723）4076　FAX. 017（773）5326
URL http://aomin.jp/　e-mail info@aomin.jp

特集 青森県民医連 第54期定期総会開催

五月二十七日(日)浪岡中央公民館において青森県民医連の第五十四期定期総会を開催し、今後二年間の運動方針について討議・確認しました。

安倍政権が憲法九条の改定に向けた憲法改正の発議を年内にも出そうとする中、私たちは憲法を学び、「安倍改憲NO！憲法を生かす三〇〇〇万人署名」に取り組みました。改ざん・隠ぺい・ねつ造など民主主義と立憲主義をないがしろにする政府に国民の怒りは広がりました。全日本民医連方針でもある「憲法九条を守り抜くこと」が今期の最大の運動であることを確認しました。

もうひとつ今期の最大の課題は青森民医連の歴史的大事業である「健生リニューアル」を成功することです。二〇一七年十月に開設し、患者数は間もなく回復しましたが経営課題に直面しています。県連の英知を結集し、経営改善に取り組むことを確認しました。

今後二年間の基本方針として、上記の他、「医療・介護活動の二つの柱」の実践、「第四次中長期計画」の推進など九項目を決定しました。全体会では十五人、分散会では延べ百九十人が発言し、活発な討論が行なわれました。定期総会は、運動方針と決算・会計監査報告、予算を満場一致で採択し、第五十四期の新しい役員を選出し終了しました。

【今後2年間の基本方針】

1. 歴史的大事業である「健生リニューアル」の成功のために、県連の英知を結集し、津軽保健生協の経営改善に取り組みます。
2. 憲法九条・二十五条は民医連の土台。九条改憲を阻止するために、憲法を学び、三〇〇〇万人署名や対話を広げます。
3. 「医療・介護活動の二つの柱」の実践、SDHの視点から、医療・介護の現場、及び社会での貧困への介入に取り組みます。
4. 「第四次県連中長期計画」の県連的な討議をし、県連全体での議論を進めます。
5. 社会保障に対する国の棚上げの責任と地方自治に医療・介護の切捨てが担わされる中、共同組織の量・質の拡大で地域からの共同を広げ、安心して住み続けられるまちづくりを目指します。
6. 民医連医療を担う医師養成と医学対の飛躍を図ります。
7. 人権としての社会保障を実現する総がかり運動を、地域との共同を軸に進めます。
8. 「人間的な発達ができる組織」にふさわしい「育ち合いの職場づくり」を通じて民医連綱領の実践をすすめる職員育成と幹部養成を図ります。
9. 県連結集をとおして、事業活動・経営活動の計画を全職員で共有し、経営改善を図ります。

（青森県民医連事務局長／佐藤　真人）

新会長挨拶

青森県民医連会長
田代（たしろ）　実（まこと）

五月二十七日の第五十四期県連総会で新県連会長に選出されました。県連内各事業所で働く職員のみなさん、よろしくお願いします。

「民医連とはどのような組織か」を考えた時に、私は大山美宏先生を思い浮かべます。大山先生は、二〇一〇年の民医連綱領改定時に、全日本民医連副会長として中心的な役割を果たし、また、川崎協同病院や東日本大震災・原発事故後の福島民医連わたり病院で、それぞれの事業所の職員と一緒に再建に取り組まれた方です（昨年の県連医師総会の和田浄史先生の講演にも登場していました）。その大山先生が、全日本民医連の会議でご一緒した時に「民医連は〝人権〟を守る組織なんだ」とおっしゃっていたことを印象深く憶えています。

では、あらためて〝人権〟とはどのようなものか？憲法学者の木村草太氏は、「人間である、というだけで保障されるべき権利が〝人権〟です」と述べています。

私たちは、人間であるのに〝人権〟が保障されていない患者さんを毎日のように経験しています。そのような状況の中で、〝人権〟を守る組織として私たちの事業所に求められるものはいよいよ大きくなっている、と言えます。

今期、県連内のすべての事業所、すべての職員の間で、〝人権〟についての認識を深め、人権の侵害をキャッチする私たちのアンテナを鋭敏にし、人権を守る実践と学習を深めていきたいと思います。それが、他の医療・介護事業所にはない、私たち民医連のアイデンティティであろうと考えています。

特集

県連総会

2018.5.26 Sat

【全体討論から】

佐々木　良太　代議員
（弘前調剤センター）

弘前調剤センター、ファルマ一ツ谷薬局の健康サポート薬局の認定についての報告。当薬局は二〇一六年十一月に健康サポート薬局一号店（青森県内）と認定され、十二月三日に第一回健康教室を開催した。現在は第六回を終え、参加人数も徐々に増えている。

梅津　諒　代議員
（八戸生協診療所）

二〇一七年四月一日より八戸生協診療所に原新所長を迎えての医療活動について報告。竹本前所長の週2.5日の外来支援を受け、二〇一七年度の延訪問診療件数は二〇一六年度と同等の二百六十件程度と奮闘し、看取り件数も二〇一七年度は五十件と引き続き高い水準を維持している。所長を交えた管理運営会議を定期開催し、今まで看護・事務別々に行っていた朝礼や会議などで診療所の方針や運営を共有できている。

寺島　由美　代議員
（健生病院）

「健生病院移転」についての報告。二〇一七年十月一日の移転に向け、健生病院内で一年前より建設会社コンサルタントの支援を受け、他職種で構成された各種プロジェクトが組織され準備をはじめた。病棟編成に伴い、新たな職場づくりの課題にも追われつつも乗り越えることができた。

砂川　照美　代議員
（大野包括支援センター）

地域包括支援センターの実践と課題について報告。二〇一七年四月から介護予防普及啓発事業では包括の保健師と法人の健康運動指導士・健康体操サポーターの協力で現在、三ケ所で活動支援を継続してる。昨年、青森市内十ケ所目の「おおの地域まちづくり協議会」が設立し、おおの包括支援センターは理事として参加、今後発展させるために民医連の法人へも無理なお願いもあると思うが、ぜひ協力をお願いしたい。

藤田　光希　代議員
（あけぼの薬局新町店）

二〇一七年教育委員会主催「ファシリティー研修会」参加についての報告。「合意形成型会議」など活かせることが多く、薬学生奨学生会議や研修の報告会などで実践した。このような良い研修に参加後、実践することが大事である。教育委員会にはその後のフォローまでお願いしたい。

【感想文より】
◆各事業所からの報告・取り組みを聞くことができた。分散会でも、活発な意見が出ていた。運営していくにあたり、職員全体の意識を高めることが大事では。特に若い職員にも民医連の取り組みなどを周知していく作業が求められると思う。

【感想文より】
◆在宅医療、介護活動の強化の連携は引き続き課題として取り組みをしていきたいと感じた。共同組織として地域に根ざした医療活動方針のもとサポートしていけるよう活動・育成を課題に2つの柱を大事にしていきたいと思う。

各分散会では総会方針案やこの間の取組みについて、活発な討論が行われました

青森県民医連第54期役員

役職名	氏名	
会長	田代　実	医師
副会長	横田　祐介	医師
副会長	伊藤　真弘	医師
事務局長	佐藤　真人	事務
事務局次長	木村　儀弘	事務
事務局次長	篠原　奈緒	事務
理事	石田　晋吾	医師
理事	石塚　理仁	介護福祉士
理事	泉谷　雅人	事務
理事	磯島　寿人	医師
理事	伊藤　雄司	事務
理事	伊藤　礼子	看護師
理事	小野富士子	看護師
理事	角田　尚樹	事務
理事	加藤あけみ	看護師
理事	古舘　正志	事務
理事	今　淳一	事務
理事	齊藤　仁	薬剤師
理事	坂戸慶一郎	医師
理事	崎野　修	事務
理事	佐々木良範	作業療法士
理事	獅子内和子	看護師
理事	砂川　典満	事務
理事	関谷　修	医師
理事	相馬　裕	医師
理事	相馬　渉	薬剤師
理事	副田　幸子	看護師
理事	竹内　一仁	医師
理事	田中　研	事務
理事	對馬　圭	理学療法士
理事	寺島　由美	看護師
理事	百成　公美	医師
理事	奈良原　恵	助産師
理事	野村美恵子	看護師
理事	波多野宏行	事務
理事	原　徹	医師
理事	舛甚　清仁	事務
理事	三浦　良成	事務
理事	三津谷靖子	看護師
理事	宮本　達也	事務
理事	村上　健俊	事務
理事	八島　将仁	事務
理事	柳谷　潤円	看護師
理事	山内　英二	事務
理事	山﨑	事務
会計監査	菊池　中央	事務
会計監査	工藤　敏子	事務
会計監査	村上　渡	事務

第48回 県連医師総会開催

2018.5.19 Sat

青森民医連第四十八回医師総会は、五月十九日ヒロロ4階市民交流館ホールで「SDH総論～医療者に求められるヘルス・アドボケイトを考える～」をテーマに百二十九名（医師五十三名）の参加で開催しました。

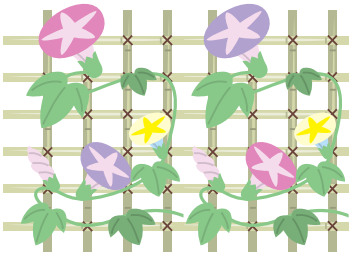
まず、石田晋吾医師委員長より「今期医師委員会は新健生病院を医療・経営活動の軌道に乗せること。同時に、県連中長期計画にあたっては、医師数の将来推計を踏まえながら各法人、事業所における役割とポジショニングを再度確認し、その役割とポジショニングに見合った医師確保と養成に取り組んでいく。いずれの課題も、その根底にSDHの視点が欠かせない」と開会あいさつ。講演は、武田裕子氏（順天堂大学医学部医学教育研究室教授）から「健康格差の社会的要因：医療者にできること」と題して、①健康の社会的決定要因（SDH）、②英国医学部教育、③医師に求められるAdvocacy role、④「SDH教育」で私が目指しているもの、の4点を柱に講演し、健康格差時代にSDHを理解し患者に寄り添う医療を提供しようと呼びかけました。

続いて、飯田和貴医師から「患者の背景を考えるSDHの実践」、加村梓医師から「小児科の日常診療、困難事例など」、大高由美医師から「健康の社会的決定要因（SDH）への取り組み）について、各現場での取り組みについて報告。これまでやってきたSDHの実践について認識を深め、今後、医学生や研修医、他職種と一緒にどのように取り組みを前進させていくかフロアを交え意見交換しました。

参加者より「改めて日常診療を続けるモチベーションになった」、「SDHの取り組みや小児科での事例など、これまで知りえなかったことに触れられた。今後の活動の基盤にしたい」など感想が寄せられました。

（青森民医連　弘前事務所事務局次長／篠原　奈緒）

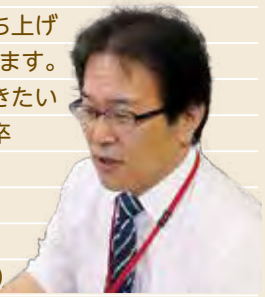
県連事務局 人事往来



2014年から4年間、県連医師委員会事務局長という重責を担わせていただきました。法人や事業所の枠を超え多くの職員のみなさんと一緒に仕事をすることができ、振り返れば大変幸せであったと感じています。今後、身は青森ですが「心は県連」の思いで奮闘する所存です。

帰任 柳谷（やなぎや）　円（まどか）
（弘前事務所事務局次長　→（一社）あおもり健康企画へ帰任）

6月11日から弘前事務所に赴任してきました。県連事務局に出向するのは薬学対を立ち上げて以来、13年振り2度目となります。学生との出会いを大事にしていきたいと思います。ご指導のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。



着任 立花（たちばな）　典明（みちあき）
（青森民医連弘前事務所）

約3年ぶり、2回目の県連出向です。課題はたくさんありますが、みなさんと一緒に乗り越えられたらと思います。気持ち新たに、粘り強くがんばります。よろしくお願いいたします。

着任 篠原（しのはら）　奈緒（なお）
（青森民医連弘前事務所事務局次長）

5月27日の青森県民医連定期総会で事務局長に選任していただきました。方針の実践を通して、職員の皆様が「民医連で働いて良かった」と誇りを持つことが、私の使命だと思います。23年の経験を活かして頑張ります。

着任 佐藤（さとう）　真人（まさと）
（青森民医連事務局長）

7月1日付、研修医室に配属となりました。初めてのことばかりで不安はありますが、周りの皆様にご指導いただきながら日々奮闘しております。一日でも早く皆様のお役に立てるよう努めて参ります。宜しくお願い致します。

着任 台丸谷（だいまるや）　未央（みお）
（青森民医連弘前事務所）

6/3・平和行進 青森市集会

2018年 原水爆禁止国民平和大行進
～核兵器のない世界を願って～

6/7・日本海コース（弘前～矢立峠）

6月7日（木）、弘前市役所から秋田県との県境、矢立峠に向けて原水爆禁止国民平和行進が行われました。天候にも恵まれ行進には多くの参加者が集まりました。平和を訴えながら行進を行っていると、お店やご自宅から出てこられる方もいて、手を振っていただき、温かいお声をかけていただきました。とても嬉しかったです。

参加者は年々減っているように思いますが、全国から平和への想いを届ける大事な行進を若い世代が引き継いでいけるよう続けていきたいと思います。

（弘前調剤センター／主任補佐　佐々木 良太）

6/6・太平洋コース（浅虫～野辺地～八戸）

6月6日、浅虫から野辺地町にかけて原水爆禁止・核兵器根絶を訴える平和行進が行われ、40名程の方々が参加しました。

今回の行進で、一人でも多くの地域住民の皆様に平和を願う声を届けられたように思います。初めての参加でしたが、実際に戦争を経験した方々と行進させて頂くことで、核兵器の恐ろしさというものを感じ取ることができました。

戦争をする国になろうとしている今、戦争で核兵器を使用された歴史を風化させてはいけないとも感じました。そのために、これからも平和を願う声を多くの方に届けていきたいです。

（大野あけぼの薬局／石田　綾佳）

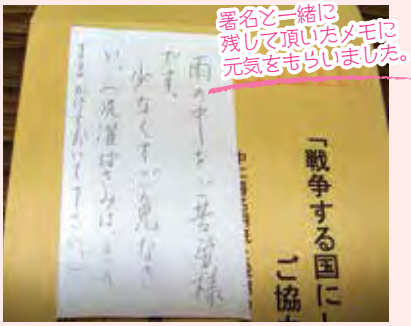
八戸医療生活協同組合理事会・平和社保委員会主催

3000万人署名地域いっせい訪問行動 地域に3000万人署名を届けよう！訴えよう！

八戸医療生協では、「3000万人署名地域いっせい訪問行動」を5月19日（土）に開催し、理事・支部長6名、職員11名の計17名が参加しました。

昼食づくりボランティアのみなさんのカレーを食べていざ出発！

暴風雨のなか訪問し、署名の説明をしました。



署名と一緒に残して頂いたメモに元気をもらいました。

前日からの強い雨風と気温10度を下回る悪天候のなか、総勢17名で八戸医療生協本部周辺のお宅141件を訪問しました。1週間前にポスティングしたお宅を2名1組で訪問し、21件（約15%）・26筆の署名が集まりました。なかには「雨の中をご苦労様です」というメモとともに署名した封筒を玄関に貼り付けていただいていた方や、訪問を待っていただいていた方、「後日医療生協本部に届けます」という方など様々な形でご協力いただき、各グループに最低1件、最大10筆の署名を預かることができました。

訪問後の振り返りでは、「無関心の方が多いと思っていましたが、ドアに貼り付けて、また、準備して待っていた方がいらっしゃり、とても感動しました。」との感想が出されました。昼食ボランティアさん手作りのカレーライス（ミニサラダ付き）を訪問の前においしくいただき、署名の確かな手ごたえも感じた「元気がでる訪問行動」となりました。

（八戸医療生活協同組合・組織部／宮沢　守）

二〇一八年新歓 医系奨学生のつどい

六月三十日（土）健生病院にて新歓医系奨学生のつどいを開催し、青森民医連 医学看護の奨学生十四名・職員十二名が参加しました。

昼食会はビュッフェ形式にしたので、参加者全員で楽しく交流できました。

健生病院 松本拓真先生より「青森民医連とわたし」と題して講演頂きました。松本先生がなぜ医師の道を目指し、なぜ民医連の奨学生になったのか、奨学生になって気づいたことなどについて、時折会場に笑い声が溢れるほど楽しく奨学生に教えていただきました。

講演の中で松本先生は「医師だけでは医療は出来ない。チームで協力して医療が成り立ち、私は他のスタッフに日々感謝しています。みなさんも一緒に働きましょう！」と奨学生にエールを送られ、この言葉が参加者アンケートで「民医連の行事に出る楽しさと重要性を知ることが出来た」「あらためて奨学生であることの意義を考えることができた」と感想が出るように、奨学生にとって印象的だったようです。

その後のグループディスカッションも、ビュッフェ形式の昼食交流会も、参加者全員が積極的に意見交換することができ、改めて「みんなは仲間である」ということを実感したつどいとなりました。

（青森民医連・青森事務所／山口 理香子）

全日本民医連主催「MIN-IREN FESTIVAL」開催

2018年6月16日(土)～17日(日)、静岡県で全日本民医連主催の医学生向け新歓企画「MIN-IREN FESTIVAL」が行われ、青森民医連から医師１人、医学生５人（東北医科薬科大の奨学生含む）が参加しました。

初日はアイスブレイクとして「熱海スタンプラリー」が行われ、医学生たちが熱海の町を散策。その後、学習企画では特定非営利活動法人自立生活サポートセンター・もやい理事長の大西蓮さんが講演され、日本の貧困状況などを学びました。交流会では弘前医ゼミについて弘前大学の学生が発表しました。

２日目は民医連ミニ学習として埼玉協同病院の救急科課長の守谷医師が断らない救急について講演。みんフェスで評判が良かったのは「民医連あつめ」でした。各県連の医学生担当者一人一人が、医学生たちに自分たちが経験した民医連の医療活動などをプレゼンしました。奨学生発表は順天堂大学の学生が「大学では医学を学び、現場で医療を学ぼう」と新１年生に訴えました。

（青森民医連弘前事務所／矢作　史考）

2018春の看護・介護ウェーブ

～強い風にも負けず！医療・看護・介護現場の改悪を地域に訴えよう～

風の強い中でも笑顔で看護・介護ウェーブ宣伝行動

イトーヨーカドーでの健康チェックは好評でした

五月十二日(土)青森市のイトーヨーカドー前で看護・介護ウェーブが開催されました。イトーヨーカドー正面ホールで健康チェックを行い、歩道では署名活動や現場の訴えを行いました。

介護現場では、度重なる介護保険改悪により、小規模の事業所は事業の廃止や休止が相次いでいます。また人手不足により、多くの病院や事業所で人材の確保が急務となっております。二時間の取り組みの間に、春風が強い中でも立ち止まり多くの方が署名をしてくださいました。

ある方からは「子供が障害を抱えている。人手不足で大変でしょうけど、がんばってください。応援しています！」と暖かい声を頂くことができました。もとより医療・介護現場で働く職員が健康でなければ、利用する患者や利用者様は安心して利用することができません。職場環境や処遇改善を訴え、今後も活動に取り組んでいきたいと思います。

（県連介護福祉士委員会
デイサービスつつみ／石塚　理仁）

2018年度初夏のつながろうチャレンジで全戸訪問実施！

六月一日から「初夏のつながろうチャレンジ」として全戸訪問を実施しています。今年度は『あおもり協立病院・協立クリニックの職員が地域訪問を行っていることを再度地域に示す。あいさつをしよう！対話を重視しよう！』を目標に取組みます。

～あいさつしよう！対話を重視しよう！～
今年度の初夏のつながろうチャレンジも頑張るぞ！！

あおもり協立病院・協立クリニックの職員が、病院近郊を部署ごとに訪問エリアを決め全戸訪問を行う「初夏のつながろうチャレンジ」も、今回で三回目となります。

六月一日の統一行動決起集会には横田院長、組織部も参加し、『自分たちの存在価値を再確認するために地域活動に取り組もう』と意思統一しました。訪問先からは「定期的に通院しています。いつもありがとうございます。」「毎年この時期に訪問して頂き、大腸がん検診を受けています。」「家から近いから、あおもり協立病院に健診を受けに今度行ってみようかな。」とのうれしい声を頂きました。

六月十二日までの到達として二十八隊五十五名の職員が参加し、訪問件数：五百十六件、対話件数：百三十五件、大腸がん検診予約が九名の成果となっています。（例年、訪問件数：約一千三百件、対話件数：約五百件です）

今後も地域からの声を傾聴するため継続して訪問行動を行いたいと思います。

（あおもり協立病院　組織活動委員会委員長／橘　千景）

訪問先の地図を確認し、いざ出発

「やればできる」「できない理由より行動」＝西淀病院の経営改善を学ぶ

～2018年度青森民医連経営セミナーを開催～

当日は127名が参加しました。

二〇一八年度青森民医連経営セミナーが六月九日に青森市で開催され、百二十七人の職員が参加しました。

セミナーでは、第一部として大阪・西淀病院の坂田進事務長から「経営『現地調査』を受けての経営改善・西淀病院の経験」と題して講演がありました。坂田事務長は、長年、「よい医療をしているのだから病院が赤字なのはしかたがない」「赤字なれ」の状態が続いたこと、三回の「現地調査」を受けて病院の黒字化をめざし、「できない理由をならべるのではなく、行動に移す」「ことわらない医療」「人件費の適正管理」「経営を正面にとらえる医師集団づくり」などに取り組み二十九ヶ月連続黒字を実現していることを報告しました。講演を受けて、「役職者として、『覚悟』を決めて『本気』を出してがんばりたい」「『やればできる』を職員にも伝え、がんばっていきたい」などの感想が多数寄せられました。

第二部では、二〇一八年医療・介護同時改定対応交流会として病院、診療所、介護事業所、調剤薬局に分かれて予算作り方針や診療報酬（介護報酬）の加算適用などについて交流しました。

（青森民医連青森事務所／那須　稔）

講師　西淀病院 事務長
坂田　進 氏

青森県民医連「基盤としてのこころの診療推進方針案」学習会

全日本民医連第四十三回定期総会方針では「基盤としてのこころの診療推進方針案」について、科を問わず検討することを呼びかけています。これを受け六月三十日に生協さくら病院にて学習会を開催いたしました。

この度、県連精神医師会議では松浦健伸先生（全日本民医連精神科医療委員会委員長、石川県民医連会長）を講師に迎えて学習会を行いました。松浦先生は、国民のこころの健康がひどく脅かされていることを否定する人はいない。その状況の中で民医連としてこの問題をどう考え、どう取り組むか。民医連で働く全ての人々にとって大切である」と提起されました。さらに、国民のこころの健康の深刻な現状を示し、これは日本のみならず先進国共通の問題でありながら、日本ではなぜこの領域での取り組みが進まなかったのかについて歴史的な観点から説明されました。

続いて精神医療の対象と民医連の理念が重なり合い、その保健医療福祉活動の実践には、メンタルヘルスの課題がおのずから包含され、民医連の精神医療は、民医連マインドを核にして発展し、今日ほど医学が専門分化し拡大する以前の民医連の発展は精神医療からの発信を資源にしてきたことを歴史にさかのぼって説明されました。

民医連内における精神医療の位置は、欧米より遅れている全国の水準に比しても低く、民医連に求められるニーズからして極めて不十分な状況にあり、それを克服するために、民医連としてはじめて「こころの診療」推進に関する方針を提起しています。

（生協さくら病院　事務長／古舘　正志）

講師の松浦　健伸 先生
（石川県民医連会長）

総代会 株主総会 2018

津軽保健生活協同組合

●新病院・新クリニック開設後の状況について報告

津軽保健生協の第九十三回通常総代会が、六月二十三日開催されました。

安田理事長のあいさつに続いて来賓からあいさつがありました。三浦良成専務から一号議案の二〇一七年度の事業報告・決算報告があり、総代からの質疑応答が行われました。その後、二号議案の二〇一八年度の事業計画・予算などの提案があり、総代からの質疑応答が行われました。

お昼をはさみ新人医師の紹介、組合員等の表彰が行われ、その後第三号議案の提案、第四号議案の提案がされ、すべての議案が賛成多数で承認されました。最後に特別決議とスローガンが力強く読み上げられ、飯田徳寿副理事長のあいさつで閉会しました。

青森保健生活協同組合

●三つの「つくろうチャレンジ」をすすめながら、医療福祉生協の地域包括ケアを実現しよう

青森保健生活協同組合二〇一八年度通常総代会が六月十五日(金)に開催され、昨年度のまとめと今年度の方針を確認しました。

青森保健生協ならではの地域包括ケアに向けた取り組みと、激動の情勢の中くらしを支え、住み続けられるまちづくりの将来設計図を描けるために事業・地域・組織の三つの戦略に分けて提案されました。今年度の「小規模多機能型居宅介護事業所」建設に伴う増資運動についてや、「健康づくりなら青森保健生協」といわれるよう地域の健康向上に貢献し、活動の「見せる化」についても提案されました。

八戸医療生活協同組合

●中道新理事長から内田前理事長へ感謝状を贈呈

八戸医療生協二〇一八年度第三十回通常総代会は、六月二十三日(土)午後一時からフリースクエアノヅキで開催され、総代百二十六名(代理人・書面議決含む)の参加の下、理事会提案の全議案が採択されました。理事会役員に、中道博章新理事長、獅子内和子新専務理事をはじめとする二十四名の理事・四名の監事を選出されました。

創立以来、約三十年にわたり八戸医療生協の発展に尽力された内田弘志前理事長に、感謝状が贈られました。

株式会社ファルマ

●かかりつけ薬局をさらに推進

●選ばれる薬局を目指す

五月二十五日(金)第三十一回通常株主総会を開催し、今年度の活動計画として①診療報酬改定を受け真に患者様に寄り添った「かかりつけ薬局」をさらに推進すること②地域の要求や地域医療構想等を見据え民医連らしい地域包括ケアを推し進め、たたかいと対応をしていくこと③「医療・介護の二つの柱」やSDHの視点を取り入れた医療構想を全役職員で討議・実践することで選ばれる薬局を目指すこと④人材の確保と育成は引き続き重要な課題とし、特に育成面を強化していくことを確認しました。

一般社団法人 あおもり健康企画

●「非営利型一般社団法人」として無事にスタート

五月二十五日、第四回定時社員総会が開催されました。「非営利型一般社団法人」として無事スタートし、旧法人「株式会社」が問題なく清算結了(閉鎖)したことが報告されました。予算では薬価改定の影響で大幅減収になりましたが、一丸となり必要利益の確保を目指すことが確認されました。また引き続き「健康サポート薬局」機能の充実や、薬剤師の確保・育成に力を入れること。役員改選期に伴い二名の新任役員を迎えたことなど、提案された議題は全て満場一致で承認され総会を終えました。

社会福祉法人 花

●「いざ、前進!」

五月十二日二〇一八年度第一回法人大会を開催しました。昨年度より、社会福祉制度の一部改正が行われ、社会福祉法人の存在意義が問われ出しました。我々、「花」も地域に根差した垣根のない、開かれた施設の実現の取組みや、事業運営での業務効率化、業務機能の向上等、組織としてのガバナンスを取り組む強化をしていくこと、そのために職員一人ひとりが、現状に満足せず高い目標や理想を掲げ業務に励んで「花を盛り上げて行こう」ということを確認しました。

これまで、さまざまな道程において、志を立てては道を失いかけてきたこともありましたが、今後の五ヶ年計画のスローガン「いざ前進」という目標を掲げ前進して行きたいと思います。

社会福祉法人 虹

●憲法を守り、私達らしい事業展開と運動の発展

二〇一八年五月十九日(土)二〇一八年度職員総会を開催しました。二〇一七年度経営活動は二期連続赤字から、全役職員の奮闘によりV字回復を遂げ必要最低利益を確保しました。社会保障切捨ての情勢は続きますが「憲法を守り生かし、安心して住み続けられる街づくり」と「医療・介護活動の二つの柱」の実践を通じて経営、運動、職員育成の基点を共有することを確認しました。

あおもり民医連 276号 発行日 2018.7.24 発行部数 2,790枚 AOMORI MIN-IREN

うちのメゴっこ vol.46

小さい頃のポコ君

♥name
ポコくん(♂)

現在のポコ君

我が家のアイドル、うさぎのポコです♪ポコはとっても甘えん坊な男の子。
家族の中で特に私のことが大好きなようで(笑)いつもべったり。
私の行くところどこにでもついてきて、寝る時も起きる時も私のそば。
仕事に行くときは、寂しそうに玄関まで見送り。
帰宅すると大好きなおもちゃを咥えて私のそばをピョンピョン嬉しそうに走りまわってみせます。
本当にかわいい！！！そんなポコは私の大事な宝物♪これからもずっとそばにいてね！（大野あけぼの薬局／品川　花鈴）

私の三つ星★★★

オススメ ～ 日本最大級の八戸館鼻岸壁朝市 ～

☆秋頃に販売される菊巻きです。

毎週日曜日に開催される日本最大級の八戸館鼻岸壁朝市は、市内に限らず階上、三戸、南部町等の店舗が集結して賑やかに行われています。日の出とともに300店舗以上が立ち並ぶお店を品定め・散策することがとても楽しいです。消費税もなく掘り出し物もあり安いのも特徴です。おにぎり、ウニごはん、お好み焼き、美味しそうな焼きたてパン、コーヒーも堪能、いかの天ぷら、焼き鳥、様々な鶏のから揚げなど品定めをしているうちに、あっという間に時間が経ってしまいます。もちろん新鮮な野菜や果物、獲れたてのお魚も購入。韓国料理のトッポギ、チヂミ、中華料理の小籠包なども頂けますよ。

私の好きな食べ物は、秋ごろ発売される「菊巻き」です。様々な漬物を菊の花びらで包んだ巻物。見た目も美しくさっぱりとしてとても美味しいです。皆様も機会がありましたら八戸館鼻岸壁朝市を堪能してみてください。きっと好きになりますよ。（デイサービスセンターたむかいの家・介護福祉士／坂本　浩一）

☆八戸館鼻岸壁朝市のマスコットキャラクター「イカドン」

機関紙編集部まで
info@aomin.jp
投稿募集!!

職員の皆さんの
オススメする本・映画
音楽・スポーツ・趣味
なんでも紹介して
いきたいと思います。

あなたと民医連をつなぐ月刊誌
いつでも元気 MIN-IREN
2018 7月号 380円 好評発売中

巻頭エッセイ／塀の中の詩の教室 寮美千子さん
リハビリ現場の会話術
映画 毎日がアルツハイマー ザ・ファイナル
けんこう教室 熱中症
まちのチカラ 鹿児島県南大隅町
食と健康 快眠につながる食事

7月 2018年7月 第3回理事会報告

全日本民医連　第54期第5回理事会報告
>> 決済承認事項
「健康で文化的な生活」実態調査について
奨学生申請承認について
東北青年ジャンボリー in 松島　参加者の選出
奨学生パンフレット制作にかかる予算承認について
>> 会務報告/各委員会・医師委員会報告
教育委員会各研修
全日本・地協各部門会議・研修
医師委員会報告
>> 協議事項

主な 今後のSCHEDULE

7/5 県連理事会
7/15 第11回大間原発反対現地集会
7/21 県連薬局活動交流集会
7/13・25 県連初期3年目研修
7/31 県連中期中堅Ⅱ期研修